

# いわき農林水産ニュース

令和2年9月号(第187号) 発行 9月24日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



ついに本年度初デビューとなる県オリジナル水稲品種「福、笑い」。収穫間際です!!

## 目次

- ・【特集】特定家畜伝染病(豚熱、高病原性鳥インフルエンザ)の発生、まん延防止対策…p.1～〔各種取組の実績(8～9月分)〕…p.3～〔お知らせ・連載記事〕
- ・いわき地方の出荷制限等品目…p.7
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果…p.7
- ・令和2年産米の出荷・販売について…p.7
- ・福島県農業総合センター農業短期大学の学生募集が始まります!…p.7
- ・経営継続補助金に係る支援等業務について…p.8
- ・農作業安全運動に取り組みましょう!…p.8
- ・ふくしま地域産業6次化サポートセンターいわき事務所が開設されます…p.8
- ・河川でのサケ採捕禁止等について…p.8
- ・GAPコーナー…p.9
- ・6次化商品紹介…p.10

## 【特集】

### 特定家畜伝染病(豚熱、高病原性鳥インフルエンザ)の発生、まん延防止対策

去る9月9日、県内で死亡していた野生イノシシから豚熱(CSF)ウイルスが確認されました。県内では初めての感染確認で、拡大への警戒を強めています。また、これから渡り鳥が飛来・越冬する秋から翌春にかけては、高病原性鳥インフルエンザの発生も懸念されます。

これらの疾病は、特に発生予防及びまん延防止のための総合的な措置を講ずる「特定家畜伝染病」に位置づけられています。

いつ発生してもおかしくないため、養豚及び養鶏農家の皆さまは普段から飼養衛生管理基準の遵守や野生鳥獣の侵入防止対策の徹底をお願いします。

#### 1 「豚熱(以下「CSF」)」(旧名称:豚コレラ)について

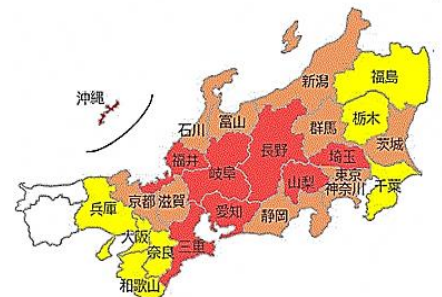
CSFは豚熱ウイルスによる豚及びイノシシの伝染病で感染力が強く致死率が高い疾病ですが、人に感染することはなく、豚肉の摂取による人への感染は報告されていません。

#### ○発生状況

- ・国内の飼養農場では、26年ぶりに岐阜県において平成30年9月に発生後、愛知県、長野県、三重県、福井県、埼玉県、山梨県、沖縄県(7県)で確認されています。
- ・野生イノシシでは、平成30年9月以降、17都府県においてCSFの陽性が確認されており、本県では令和2年9月9日の初確認以降、9月19日までに会津地方において計5頭の感染が確認されました。

#### ○対策状況

国では、野生イノシシでの感染が確認された県に加え、今後の感染拡大が想定される24府県をワクチン接種推奨地域に設定し、飼養豚へのワクチン接種を実施しています(図1)。本県は、群馬県での事象を受け、8月31日に新たにワクチン接種推奨地域に追加されましたが、今回の発生を受け、会津地方でワクチン接種を9月14日より開始しているほか、半径10km以内区域を移動制限区域(家畜の移動禁止)に設定しました。現在、国や関係機関と調整しながら立入調査で異常がないことを確認した豚から制限対象外としています。



飼養豚陽性発生県: 赤色  
【8県】(飼養頭数 951,040頭(全国10.4%))  
野生イノシシ陽性発生県: 赤色(沖縄を除く) 橙色  
【17都府県】(飼養頭数 2,264,720頭(全国24.7%))  
飼養豚へのワクチン接種推奨地域: 赤色 橙色 黄色  
【25都府県】(飼養頭数 3,642,690頭(全国39.8%))

〔図1 CSFのワクチン接種状況〕  
(農林水産省 HP より)

また、野生イノシシの捕獲強化のための「捕獲重点エリア」を設定し、銃猟の効果的な活用、わなの数を増やすなど感染区域の拡大防止を図ることとしています。

なお、9月24日現在、いわき市も含め、県内の養豚農場での感染は確認されていません。

## 2 高病原性鳥インフルエンザについて

鳥類（鶏やウズラ、キジ等）に発生するA型ウイルスによるインフルエンザです。

そのうち、感染した鳥が死亡するなど、特に強い病原性を示すものを「高病原性鳥インフルエンザ」と呼びます。

感染した鳥との接触等による感染例はありますが、鶏卵、鶏肉を食べることでの人への感染は報告されていません。

### ○発生状況

平成30年1月に香川県で高病原性鳥インフルエンザが確認された以降の感染事例はありません。

また、国内での野鳥の発生は平成30年3月25日の回収個体以降認められていません(図2)。

### ○対応状況(野鳥)

県では死亡した野鳥について、必要に応じ鳥インフルエンザの感染有無について検査を行っています。

国内における高病原性鳥インフルエンザの発生状況(平成29年11月以降)

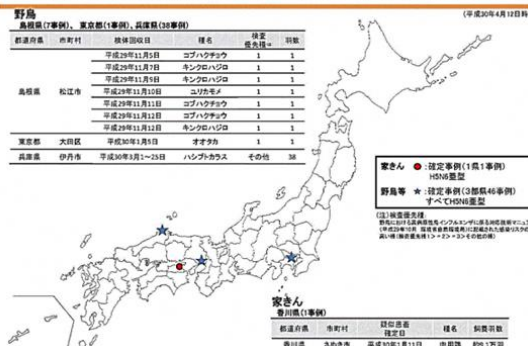


図2 国内における高病原性鳥インフルエンザの発生状況 (平成29年11月以降：農林水産省HPより)

## 3 いわき地域における防疫体制

いわき地域では、市内の関係機関、団体等で構成される「福島県牛豚等特定家畜伝染病いわき地方対策本部」「福島県高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ対策いわき地方対策本部」を、また、上記本部にそれぞれ「連絡会議」を設置し、情報を共有しながら疾病のまん延を最小限に抑え、早期終息を図るための体制をとっています。

また、「豚コレラいわき地方防疫作業マニュアル」「鳥インフルエンザ防疫作業マニュアル」に基づき、実際の発生を想定した防疫演習も実施しています(写真)。



写真 いわき地方特定家畜伝染病防疫演習(令和元年度)

## 4 発生予防対策

衛生管理区域及び豚舎や鶏舎へウイルスを持ち込まないことが重要です。

①人・物・車両によるウイルスの持込み防止	②野生動物対策
<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生管理区域、豚舎、鶏舎への出入りの際の洗浄・消毒の徹底(共通)</li> <li>衛生管理区域専用の衣服、靴の設置と使用の徹底</li> <li>衛生管理区域専用の衣服、靴の設置と使用の徹底(共通)</li> <li>人・物の出入りを記録(共通)</li> <li>飼料に肉を含み、又は含む可能性があるときは、あらかじめ70℃・30分以上又は80℃・3分以上の加熱処理を徹底(豚)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼料保管場所等へのねずみ等の野生動物の排せつ物等の混入防止(共通)</li> <li>鶏舎への防鳥ネット(2cm角以下の網目)の設置、破損の補修(鳥)</li> <li>豚舎、鶏舎周囲の清掃、整理・整頓(共通)</li> <li>死亡家畜の処理までの間、野生動物に荒らされないよう適切に保管(共通)</li> <li>イノシシ等の野生動物が現れるおそれのある場所にゴミを放置しない</li> <li>ゴミ置き場などに野生動物が入らないようにする(豚)</li> </ul>

(農林水産省HPを一部改編)

畜産農家の皆さまは、飼養衛生管理を徹底いただくとともに、早期発見のために毎日しっかり観察していただくようお願いします。

また、耕種農家の皆さまもほ場周囲にイノシシや鳥の死骸がないかを観察していただき、もし死んだ野生イノシシや野鳥などを発見した場合には、死骸には触れずに下記まで連絡をお願いします。

いわき地方振興局県民部(TEL 0246-24-6203) 福島県中央家畜保健衛生所(TEL 0247-57-6131)  
(農業振興普及部)



## 食品表示研修会を開催

〔9月2日(水)〕

いわき芸術文化交流館アリオス(p.9 地図参照)大リハーサル室において、当所主催による食品表示法研修会を開催しました。

研修会では市内の食品関連事業者40名が出席し、いわき市保健所及び当所職員の講師3名により本年4月から完全施行となった新しい食品表示制度に則った食品の表示方法について、品質事項、衛生事項、保健事項の項目ごとにわかりやすく説明しました。

食品表示制度については、令和4年4月に新しい加工食品の原料原産地表示制度が完全施行されるなど、今後も新制度が施行されますので、県では引き続き関係機関と連携しながら食品関連事業者の適正な食品表示の理解促進に努めてまいります。



(研修会の様子)

(企画部)

## 農業委員・農地利用最適化推進委員研修会

〔9月2日(水)〕

一般社団法人福島県農業会議主催による、農業委員・農地利用最適化推進委員研修会が、スパリゾートハワイアンズ(p.9 地図参照)で開催されました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の予防策を講じ、例年より規模を縮小した上で、浜通り地域等の9市町村から約90名の農業委員・農地利用最適化推進員が出席しました。

今回の研修会は「人・農地プラン」\*の実質化に向けて重要である、話し合いによる地域のあり方などの合意形成を促す技術習得を目的とする内容であり、出席者は真剣に講師の話に耳を傾けていました。

「人・農地プラン」の実効性を高めるためには、委員の皆様のコーディネーターとしての役割がますます重要となっており、今後の活躍が期待されます。

\*「人・農地プラン」…農業者が話し合いに基づき、地域農業における中心経営体、地域における農業の将来の在り方などを明確化し、市町村により公表するもの



(挨拶をする酒井次長)

(企画部)

## チェーンソー伐木造材技術研修会

〔9月3日(木)〕

磐城流域いわき地区林業活性化センターの主催により、伐採作業の指導者向けに令和2年度チェーンソー伐木造材技術研修会が川前町において開催されました。

林材業安全技能師範の小田桐久一郎氏(青森県)を講師に迎え、「安全で正確な伐木のためのチェーンソー操作技能の基本トレーニング」をテーマに、経験や勘に頼らない数値的裏付けに基づく指導の重要性など指導上のポイントについて講義が行われ、参加した管内の林業関係者15名が熱心に聞き入りました。

本研修テキストは、一般社団法人全国林業改良普及協会(全林協)ホームページよりダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

【全林協ホームページ】 [http://www.ringyou.or.jp/publish/detail\\_1591.html](http://www.ringyou.or.jp/publish/detail_1591.html)



水糸を使って伐倒方向を確認する参加者

(森林林業部)

## あかい菜園株式会社が福島県農業賞復興・創生特別賞を受賞

〔9月9日(水)〕

福島市の杉妻会館において、第61回福島県農業賞表彰式が開催され、当所管内のあかい菜園株式会社が東日本大震災などからの本県農業の復興や創生に貢献している農業者を表彰する「復興・創生特別賞」を受賞しました。

当法人は、震災によりトマトの栽培施設に大きな被害を受けましたが、徹底した放射性物質対策を実施した上で早期復旧し、首都圏での宣伝活動に取り組むなど本県農業の風評払拭に努めたこと、さらに、昨年10月には令和元年東日本台風により甚大な浸水被害を受けましたが、いち早く復旧し本年3月にはトマトの出荷を再開するなど地域住民の雇用確保への取組が高く評価され、この度受賞となりました。

また、複合環境制御システムなどの省力化技術の導入や当所管内で初めてJGAP認証を取得するなど積極的な経営改善や農業高校のインターンシップ生の受入れなどによる担い手の育成、障がい者など多様な人材の雇用など農業経営や地域貢献の取組も高く評価されました。

今後とも地域農業のけん引役として、更なるご活躍を期待しております。

(企画部)



あかい菜園(株)の船生代表取締役(写真左)及び小島常務取締役(写真右)と内堀知事

### トピック1

## あかい菜園株式会社が清水いわき市長を表敬訪問

〔9月17日(木)〕

いわき市役所において、あかい菜園株式会社の船生代表取締役ら2名が「第61回福島県農業賞復興・創生特別賞」受賞報告のため、清水市長を表敬訪問しました。

清水市長からは管内で唯一県農業賞を受賞した船生代表取締役らに対しお祝いの言葉が述べられ、令和元年東日本台風の被害からの復旧状況などについて尋ねられていました。

(企画部)



左から清水市長、あかい菜園(株)船生代表取締役、小島常務取締役

## 第45回福島県児童・生徒木工工作コンクール審査会を開催

〔9月11日(金)〕

いわき・ら・ら・ミュウ(p.9 地図参照)において、第45回福島県児童・生徒木工工作コンクール審査会が行われました。県内の小学校22校から総数371点の作品が参加し、校内選考により選ばれた64点について審査が行われました。このうち、最優秀賞である福島県知事賞には、いわき市の小学校から2点、優秀賞に12点選ばれました。11月28日にはいわきワシントンホテルにおいて表彰式が行われる予定です。

また、上位入賞作品6点については、第45回全国児童・生徒木工工作コンクールに出品される予定です。

今年の参加作品数は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年よりも少なくなりましたが、いずれも木の特性を活かした、小学生らしい独創性あふれる作品ばかりで、白熱した審査会となりました。

(森林林業部)



(審査の様子)

今年もいわき梨がベトナムへ旅立ちます！〔8月24日(月)〕

ベトナム向け輸出梨出発式がいわき地区梨選果場にて開催されました。出発式には JA 福島さくら管野代表理事組合長、いわき梨部会、市、県等の関係者が出席し、いわき梨「幸水」の出発を見送りました。また、出発式当日には JA 福島さくら、いわき梨部会が内堀知事を表敬訪問し、今年度の梨輸出第1便が無事出発したことを報告しました。



(輸出梨出発式の様子)

4年目となる今年度の輸出量は、郡山地区を含めた JA 全体では約9 tを計画しており、いわき地区では「幸水」2.1 t、「豊水」2.1 t、「新高」1.9 tの計画となっています。今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、現地に渡航してのプロモーション活動はできませんが、新たなPR手法を活用し販促活動を実施してまいります。

(農業振興普及部)

アワビ稚貝放流

〔8月27日・28日(木・金)〕

いわき市漁業協同組合に所属する採鮑漁業者が、殻長概ね25mmのアワビ(エゾアワビ)稚貝46,000個をいわき市の沿岸10地区(久之浜、四倉、薄磯、豊間、江名、中之作、永崎、下神白、小浜、勿来)で放流しました。



〔アワビ稚貝放流の様子  
(8月28日、豊間)〕

震災前はいわき地区で約55万個のアワビ稚貝が放流され、同地区で水揚げされたアワビに占める放流個体の割合は3~7割を占めていたことから、アワビ稚貝の放流はアワビ漁業を支える重要な取組です。そのため、採鮑漁業者もアワビ稚貝が付着した付着器(塩ビパイプを半分に切断したもの)を潜水により丁寧に放流しました。

放流したアワビ稚貝は早ければ3年ほどで水揚げ可能な大きさ(殻長9.5cm以上)に成長します。

(水産事務所)

新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議を開催

〔8月31日(月)〕

県いわき合同庁舎において、令和2年度新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議を開催しました。

会議では、上記プロジェクトにおいて「園芸産地復興計画」を定め、課題解決に取り組んでいる「いちご」「ねぎ」「日本なし」「りんどう」の4品目について、昨年度実績及び今年度活動計画、今年度の活動状況について意見交換等がなされました。



(推進会議内での検討)

出席者からは、いちご、ねぎの病害対策や日本なしの新しい栽培方法の普及性などについての質問が出るなど、産地での課題についての共有が再確認されました。

今後は各品目でセミナーや研修会が計画されており、関係機関・団体が一体となったいわき地方の園芸振興が、より一層積極的に進められることが期待されます。

(農業振興普及部)

### いわき市産木材利用推進会議

〔8月31日(月)〕

いわき市文化センターにおいて、いわき市主催によるいわき市産木材利用推進会議が行われました。初めに、いわき市長より林業関係者や学識経験者等 18 名に委嘱状が交付され、続いて行われた会議において、会長に選出された田子いわき市森林組合代表理事組合長のもと、「(仮称)いわき市産木材利用促進条例」制定に係る概要説明及び質疑応答が行われました。



(会議の様子)

本会議は、本市の林業・木材産業の活性化と、公共建築物等の木造・木質化や地元産材利用の一層の推進を目的に設置され、今年度は地元産木材の利用促進を目的とした条例の制定に向けた審議が行われます。

(森林林業部)

### いわき地方農薬適正使用推進会議を開催

〔8月31日(月)〕

県いわき合同庁舎において、令和2年度いわき地方農薬適正使用推進会議を開催しました。本会議構成機関のいわき市農業振興課、全国農業協同組合連合会福島県本部、JA 福島さくらいわき地区本部、福島県農業共済組はいわき支所、福島県農業総合センター安全農業推進部、当所農業振興普及部及び森林林業部の担当者が参集し、農薬飛散・誤使用等における対応や無人航空機による農薬の空中散布等について情報を共有しました。引き続き、関係機関との連携を密にしながら、農薬事故防止に向けて万全の体制を整備してまいります。



(会議の様子)

(農業振興普及部)

### トピック2

#### 当所発注工事が県優良工事の表彰を受賞

〔9月4日(金)〕

福島市にて「福島県優良建設工事」の表彰式が行われ、当所発注工事の中からは農道部門において株式会社鈴民建設の工事が受賞しました。

この表彰は県が発注した工事から、工期内に安全に創意工夫を凝らした技術を駆使して完成し、出来形・品質・出来映えが優秀な現場を対象として、工事の技術水準の向上と安全な施工の確保を図ることを目的としています。

本工事は大規模土工の切土工事にあたり、ICT 建設機械を活用することにより正確な法面仕上げを行ったほか、土量管理アプリを併用し土量を把握するなど効率的な工程管理を行うことで迅速な施工につなげたことが特に評価されました。

受賞した工事内容は右上のとおりです。



〔復興〕基幹農道整備 3001 工事  
釜ノ前4期地区  
道路改良工 L=449m  
請負額 133,121,880 円



(株式会社 鈴民建設)

(総務部・農村整備部)

## お知らせ

### いわき地方の出荷制限等品目

令和2年8月末日現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷が制限等されている品目は(表)のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値(100Bq/kg)以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。(企画部)

(表) 農林畜水産物の出荷制限等品目(令和2年8月末日現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび(野生のものに限る)*、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

\*わらび(栽培)は該当生産者15名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

### いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果(令和2年8月分)

#### □ 農林畜産物の検査結果

令和2年8月の農林畜産物モニタリング検査では、検査した6品目13検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値(100Bq/kg)を超えたものではありませんでした。内訳は(表)のとおりです。(企画部)

(表) 放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

菌床しいたけ(施設)8、菌床なめこ(施設)1、トウモロコシ1、ブルーベリー1、日本ナシ1、原乳1

#### □ 海産魚介類の検査結果

令和2年8月の水産物モニタリング検査では、113検体の魚介類を検査し、放射性セシウムが基準値(100Bq/kg)を超えたものではありませんでした。(水産事務所)

### 令和2年産米の出荷・販売について

今年も、おいしい新米が出回る季節を迎えます。

これまでお知らせしてきたとおり、県では避難指示等のあった一部地域を除き、全量全袋検査からモニタリング検査に移行します。モニタリング検査地域では旧市町村ごと3点の抽出検査を行い、安全性が確認された旧市町村から出荷・販売が開始されます。

いわき市などのモニタリング地域の米袋には全量全袋検査済みラベルの貼付はなくなりますが、全量全袋検査を引き続き行う地域(避難指示等のあった12市町村)ではこれまで通りに検査済みラベルを貼付します。ラベルのある米袋と貼付なしの米袋が流通することとなりますが、どちらも安全性を確認したものですので、引き続きご安心のうえお召し上がりくださるようお願いいたします。

また、農業者の方におかれましては、ご自分の水田がある地域で出荷・販売が可能になったかどうかは県HP(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035b/daishinsai-kokurui-monitoring-shinchoku-r2.html>)でご確認いただくか、農業振興普及部(TEL 0246-24-6161、6162)またはJA福島さくら(いわき地区本部または最寄りの営農経済センター・支店)にお問い合わせください。(農業振興普及部)

### 福島県農業総合センター農業短期大学の学生募集が始まります!

西白河郡矢吹町の福島県農業総合センター農業短期大学において、令和3年度学生募集に向けた推薦入校試験の受付が9月28日(月)より始まります。本校では水田・野菜・果樹・花き・畜産の5学科に分かれ、実践的な農業の技術力と優れた経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成するために、学科毎に様々な講義や実習、加工や販売等の実習を実施しています。受験を希望される方は本校農業経営部(TEL 0248-42-4113)までご連絡ください。(農業振興普及部)



### 経営継続補助金に係る支援等業務について

新型コロナウイルス支援策として、国の令和2年度第2次補正予算において「経営継続補助金」（公募事業）が措置されました。新型コロナウイルス感染症の影響を克服するため、感染拡大防止対策を行いつつ、販路回復・開拓や生産・販売方式の確立・転換のための機械・設備の導入等、経営継続に向けた農林漁業者の取組を支援します。申請については、農協や農業経営相談所等の支援機関にお問い合わせください。その他ご不明な点については、当所農業振興普及部までご相談ください。

「経営継続補助金」の詳細については、農林水産省 HP (<https://www.maff.go.jp/j/keiei/keizoku.html>) をご覧ください。 (農業振興普及部)

### 農作業安全運動に取り組みましょう！

収穫シーズンとなりましたが今年も残暑が残る秋となり、例年県ではこの季節においても熱中症患者が発生しています。また、収穫時にはトラクターを使用する頻度が増えることから農作業事故も発生しやすい季節です。農作業事故を発生させない、遭遇しないためにも日頃の体調管理をしっかりと行い、機械類を扱う前には事前点検を行い周囲の安全を確認しましょう。また、無理な作業は行わず必ず水分補給・休憩を取るようにし、農作業安全運動に取り組みましょう！ (農業振興普及部)

### ふくしま地域産業6次化サポートセンターいわき事務所が開設されます

10月より、県いわき合同庁舎内に「ふくしま地域産業6次化サポートセンターいわき事務所」が開設されます。

同事務所にいわき管内専属の企画推進員1名が常駐し、個別相談対応や専門家派遣の調整など6次産業化に取り組む事業者の皆さまを支援します。

なお、詳細については次号にてご案内いたします。

■設置期間：令和3年3月31日（水）まで

■設置場所：県いわき合同庁舎内

ふくしま地域産業6次化サポートセンターHP：<http://www.fukushima-message.com/> (企画部)

### 河川でのサケ採捕禁止等について

間もなく、河川へのサケの遡上シーズンとなりますが、水産資源保護法及び福島県内水面漁業調整規則において、河川でのサケの採捕は禁止されています。

また、福島県漁業調整規則により、河口付近におけるサケを含む水産動植物の採捕が、以下の対象河川、区域及び期間において禁止されています。

釣り等を行う際は、ご注意ください。

対象河川	禁止区域	期間
真野川、新田川、請戸川、熊川、富岡川、井出川、木戸川、夏井川、鮫川	最大高潮時における河口中央から半径550m以内の海域	毎年9月1日から翌年5月31日まで

詳しくは、水産事務所（TEL 0246-24-6175）までお問い合わせください。 (水産事務所)



# GAP コーナー

## GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

### GAPの取組が新型コロナウイルス感染症対策につながっています！

GAP を実践している生産者から、GAP の取組が新型コロナウイルス感染症対策等につながったとの声があがっています。

例えば JGAP (青果物 2016) では、下記表のとおり作業員及び入場者の健康状態の把握や手洗い施設の設置について適合基準が設けられています。この基準に従い日頃から従業員の体調チェックや検温、適切な手洗いの実施などに取り組んでいた生産者からは、「普段の取組がそのまま新型コロナウイルス感染症対策につながった」との声が聞こえています。

さらに、「GAP を取得していたことで安心安全が担保されていると評価され、取引先による現地確認なしで出荷することができた」等の声も聞こえており、このような非常事態の中でも農場の安心安全を確保する手段として、GAP は非常に有効です。

当所は、今後も安心安全を確保できるツールとして GAP の取組を推進してまいります。(農業振興普及部)

番号	レベル	管理点	適合基準
13.1	必須	作業員及び入場者の健康状態の把握と対策	① 農産物を通して消費者に感染する可能性がある疾病に感染しているまたはその疑いのある作業員及び入場者は、事前に農場の責任者へ報告をしている。 ② 農場の責任者は、①に該当する者に対して、収穫及び農産物取扱いの工程への立入・従事を禁止または対策を講じた上で立入・従事を許可している
13.3.1	重要	手洗い設備	手洗い設備は、トイレ及び農産物取扱い施設の近くに用意されている。手洗い設備は衛生的に管理され、衛生的な水(管理点16.1.2参照)を使った手洗いができる流水設備と手洗いに必要な洗浄剤・手拭・消毒等の備品がある。

### トピック3

### 底びき網漁解禁

〔9月2日(水)〕

7月から8月に及び2ヶ月の夏休み(資源保護のための禁漁期間)を終え、9月より底びき網漁が解禁しました。初漁日の9月2日には、計 27 隻の漁船がいわき沖(水深 70~120m)で操業し、久之浜魚市場、沼之内魚市場、小名浜魚市場に水揚げしました。水揚げ魚種としては、高級魚のアカムツやヤナギムシガレイなどが比較的多く見られました。昨年度と同様、夏場に海が荒れなかったため、漁場に魚が少ないと嘆く声があちこちから聞こえました。今後、台風などの時化により魚が動き、また水温が低下することにより、ヒラメやマガレイなどの水揚げ量が増加することを期待しています。(水産事務所)

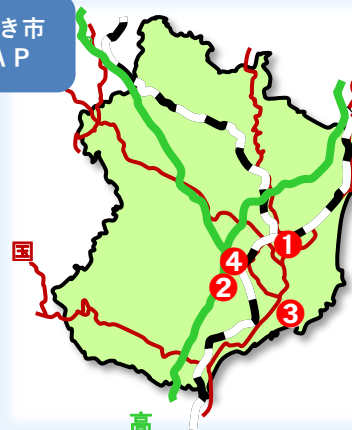


水揚げされたアカムツ  
(9月2日、久之浜魚市場)

### 今月号に掲載した場所はここです！

- ① いわき芸術文化交流館アリオス (p.3)  
平三崎1-6
- ② スパリゾートハワイアンズ (p.3)  
常磐藤原町藤平 50
- ③ いわき・ら・ら・ミュウ (p.4)  
小名浜辰巳町 43-1
- ④ RED & BLUE CAFE (p.10)  
常磐上湯長谷町釜ノ前1-1  
いわきFCパーク3F

いわき市  
MAP



こだわりと美味しさがつまった  
いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

(株)47PLANNINGが運営するいわきFCオフィシャルカフェ「RED&BLUE CAFE」では、自慢のパンケーキをはじめ、いわき産の食材を活かしたカフェメニューを提供しています。

新商品の「Rb クリームパンケーキ」は、とうふ工房 分家 奈良屋の豆腐・木村ミルクプラント(株)の牛乳・(有)あぶくま鶏卵の卵が生地に練り込まれており、驚くほどふわふわの食感で優しい味わいとなっています。冷凍で保存することができ、片手でも食べやすい大きさです。

定番商品は生クリーム・チョコクリーム・メープルクリームの3種類で、今後はいわきの旬の野菜や果物などのフレーバーが登場する予定です。また、いわき FC パークとのコラボ商品「プロテイン Rb クリームパンケーキ」をテイクアウトにて販売しています。

RED&BLUE CAFEのほか、オンラインショップ、道の駅よつくら港でお買い求めいただけます。生産者の思いのつまったこだわりのパンケーキを、お店でもご家庭でも是非お楽しみください！



Rb お問い合わせ  
RED & BLUE CAFE

- 住所:いわき市常磐上湯長谷町釜ノ前1-1 いわき FC パーク3F
- TEL:0246-85-5722
- 営業時間:11:00 ~ 17:00
- ※新型コロナウイルス感染症の影響により営業時間が変更になる可能性があります。詳しくはいわきFCパークHP (<https://iwakifcpark.com/rb/>)にてご確認ください。
- 定休日:毎週火曜日
- オンラインショップ: <https://rbcafe.theshop.jp/>

所在地は p.9 のマップを参照

編集後記

だんだんと秋らしく涼しい気候になってきましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

さて、秋といえば「食欲の秋」ですね！先日取材で上段の「RED&BLUE CAFE」に伺い、クリームパンケーキをいただきました。いわき産の食材をふんだんに使ったパンケーキはふわふわで絶品でした！

いわきにはおいしいものがたくさんあるので、今年はたくさん食べて「食欲の秋」を満喫しようと思います。

(企画部 K)



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
 福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
 〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
 (県いわき合同庁舎 3階)  
 T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196  
 U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース